



湿原の神の声が聞こえる

サルレンカムイ

タンチョウの四季

3月なかばになると、釧路市阿寒町や鶴居村の給餌場から各地の湿地帯に移動し、ヨシを使って巣づくりをはじめます。

巣ができると、長さ10cmくらいの卵を1個か2個産みます。卵は親が交代で抱き続け、約1か月でヒナが生まれます。

ヒナは約100日で親と同じくらいの大きさになり、飛べるようになります。

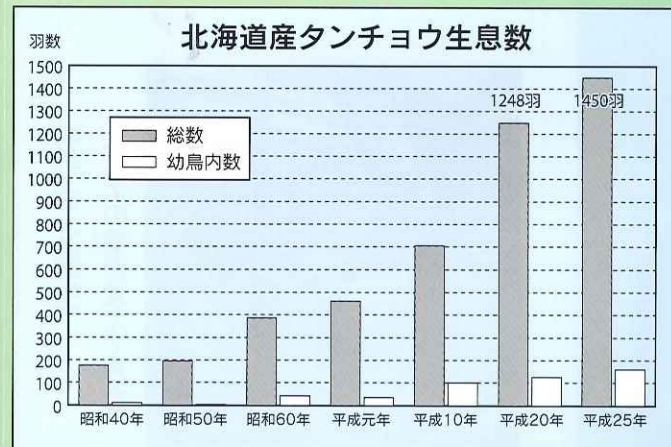
冬に入ると、大部分のタンチョウは給餌場に集まってきます。



タンチョウの生息状況

タンチョウは日本のほかロシアのアムール川流域や中国の東北部に1,400羽ほどが生息しています。わが国では北海道東部に1年中見られ、ツルのなかまではただ1種日本で繁殖しています。

昭和27年以来、毎冬に生息数の一斉調査が行われ、平成25年度の調査では1,450羽を数えました。





特別天然記念物 タンチョウ

英名 Red-crowned Crane

学名 *Grus japonensis*

古くから伝わる民話の中にも登場するタンチョウは、江戸時代まで各地でその姿を見ることができました。明治に入り個体数が減少し、全く姿が見られなくなりました。大正13年、十数羽のタンチョウが釧路湿原に確認されて以来、地元の方々の努力によって保護活動が進められ、昭和27年、国の特別天然記念物に指定されました。

丹頂鶴自然公園の沿革

絶滅の危機にあるタンチョウを保護増殖するため、昭和33年8月、釧路市鶴丘に5羽のタンチョウが放され開園しました。

当初、全く生態がわからず手さぐりの状態でしたが、10年後に自然ふ化、昭和45年には人工ふ化に成功して以来、多くの増殖を手がけてきました。

昭和62年から2か年にわたり管理棟などの全面改築を行い、レクチャールーム・展示室を設けるなど、見学はもとより学術的施設としても充実されました。現在、約20羽のタンチョウが放飼されています。

また、平成12年4月から釧路市動物園に移管され、同園のタンチョウ保護増殖センターとともに保護増殖事業の連携が図られています。



もうすぐ誕生
(ヒナの嘴が見えてきた)

TANCHO



間近で会える
タンチョウたち



ご案内

入園料

区分	金額	
	一般	団体(15人以上)
一般(高校生以上)	470円	376円
小学生・中学生	110円	88円

上記入園料は1人1回あたりの金額であり消費税が含まれています。
 ■入園料の減免については釧路市動物園(0154-56-2121)へお問い合わせ下さい。
 ■幼児は無料です。

開園時期

(夏期)4月10日～体育の日/AM9:00～PM6:00
 (冬期)体育の日の翌日～4月9日/AM9:00～PM4:00
 ■12月31日～1月3日は休園いたします。

ご案内図

釧路市動物園まで6km、お車で9分



記念スタンプをどうぞ。